I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 27
Louis Armstrong【ルイ・アームストロング】
～サッチモの愛称で親しまれた“ジャズの父”“ジャズの王様”～

写真提供：ユニバーサル・ミュージック

Profile

1901 年 8 月 4 日、米国ルイジアナ州ニューオーリンズのストーリーヴィル地区で生まれる。本名は Louis Daniel Armstrong。黒人地区の貧しい環境で育ち、子供の頃に祭りで浮かれてピストルを発砲したことによって少年院に送られるが、その少年院のブラス・バンドでコルネットを演奏することで楽器と出会う。23 年にシカゴに移り、キング・オリヴァー楽団に加入。同年初のレコーディングを行う。翌 24 年にニューヨークに移り、フレッチャー・ヘンダーソン楽団に在籍し、ベッシー・スミス等とも共演。25 年にシカゴに戻り、自身のバンドの“ホット・ファイヴ”を結成。30 年代にはヨーロッパ・ツアーを行い、第二次世界大戦時には慰問公演等も行った。トランペットに限らず、スキャット唱法なども生み出し、ヴォーカリストとしても多大な影響を与える。また、『グレン・ミラー物語』（54 年）、『五つの銅貨』（59 年）、『真夏の夜のジャズ』（59 年）、『ハロー・ドーリー』（69 年）等、映画界にも出演し、多方面でその魅力を発揮し大活躍。後に米国親善大使としても世界中を回った。53 年に初来日し、63 年と 64 年にも再来日している。1971 年 7 月 6 日、心臓発作のためニューヨークのクイーンズ地区コロナの自宅で永眠。「サッチモ・ハウス」と呼ばれる自宅は国の歴史的建造物に指定された。また、その死から 16 年後の 87 年に公開された映画『グッドモーニング・ベトナム』の大ヒットと共に「この素晴らしき世界」は生涯最大のヒット曲となった。享年 69 歳。「サッチモ（Satchmo）」「ポップス（Pops）」「ディッパー・マウス（Dipper Mouth）」等の愛称で親しまれ、20 世紀を代表するジャズ・ミュージシャンの一人として、現在も世界中の人々に愛され続けている。

LA's Great Album

『エラ・アンド・ルイ』『サッチモ・シングス・ディズニー』『サッチ・プレイズ・ファッツ』に各種ライヴ盤をはじめ、長いキャリアの中でたくさんの名盤・名演を残しています。

若きサッチモが率いた伝説のバンドの名演

The Hot Fives Vol. 1
Louis Armstrong
（Columbia : 44049 [Import CD]）

Louis Armstrong（vo, cln）、
Lil Hardin Armstrong (p)、
Kid Ory (vo, tb)、
Johnny Dodds (as, cl)、
Clarence Babcock (vo)、etc..

1. My Heart 2. Yes! I'm In The Barrel 3. Gut Bucket Blues
4. Come Back, Sweet Papa 5. Georgia Grind 6. Heebie Jeebies
7. Cornet Chop Suey 8. Oriental Strut 9. You're Next
10. Muskrat Ramble 11. Don't Forget To Mess Around（他、全 16 曲）

1925 年ニューヨークからシカゴに戻った 20 代半ばのサッチモが、当時の妻リル・ハーディン (p) 等と結成したバンド＝ホット・ファイヴ。同バンドが 26 年に録音した「Heebie Jeebies」は、ジャズ史上初のスキャット・ヴォーカル・ナンバーとして知られるが、その曲も含め、伝説のバンド＝ホット・ファイヴの名演 16 曲を収録したアルバム。ジャケットにはトランペット片手にピアノの前に腰をかけるサッチモを囲むように、メンバー 4 人が微笑み談笑しているようなショットが写っているが、何とも和やかな雰囲気だ。バードやディジー、マイルスやコルトレーンもまだ登場していない時代のジャズ～「Gut Bucket Blues」「Cornet Chop Suey」等、若きサッチモの熱演がぎっしりと詰まっている。

ジャズの父、ブルースの父を歌う

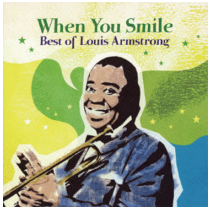
プレイズ・W.C. ハンディ
ルイ・アームストロング
（ソニー・ミュージック : SRCS-9206）

ルイ・アームストロング（tp, vo）、
トラミー・ヤング（tb）、
バーニー・ビガード（cl）、
ビリー・カイル（p）、
アーベル・ショウ（b）、他

1. セント・ルイス・ブルース 2. イエロー・ドッグ・ブルース
3. ラヴレス・ラヴ 4. アーント・ヘイガース・ブルース 5. ロング・ゴーン
6. メンフィス･ブルース 7. ビール･ストリート･ブルース 8. オール・ミス
9. 小声で歌う 10. ヘジテイティング・ブルース（他、全 11 曲）

ジャズ発祥の地＝ニューオーリンズ。ミシシッピ川麓にある南部の街には今でもその当時の名残がたくさんある。“ ジャズの父 ” こと、サッチモの銅像はニューオーリンズの街角にあるルイ・アームストロング公園に。そして “ ブルースの父 ” こと、W.C. ハンディの銅像はメンフィスのビール・ストリート沿いの広場に建ち、その表情はジャズとブルースというアメリカの伝統音楽をそれぞれ温かく見守っているようだ。W.C. ハンディには、各地で出会った黒人が口ずさむ生のブルースを譜面に起こし整理したという功績がある。本作はサッチモがその “ ブルースの父 ” ＝ W.C. ハンディに敬意を表し、その優れた作品群を自身のバンドを率いて熱演したアルバムで、1954 年に吹き込まれた。

サッチモこそ “ 癒し系 ” ～究極のベスト盤！



ホエン・ユー・スマイル～ベスト・オブ・ルイ・アームストロング
ルイ・アームストロング
（ユニバーサル・ミュージック : UCCU-1279）

ルイ・アームストロング (tp, vo)、他

1. 君ほほえめば（MONO）2. バラ色の人生（MONO）
3. この素晴らしき世界 4. ハロー・ドーリー！ 5. チーク・トゥ・チーク
6. ブルーベリー・ヒル（MONO）7. キャバレー
8. アイ・スティル・ゲット・ジェラス（他、全 19 曲）

普段からハードなジャズばかり聴いている方やジャズの原点に興味がある方にはお薦めの 1 枚！ ハート・ウォーミングな歌声。天まで届くような明るく楽しげなトランペットの音色。大きな口から真っ白な歯を覗かせて、白いハンカチで額から流れる汗を拭き拭きスタンドマイクの前で熱唱するサッチモの姿は、愛くるしいという以上にジャズの魂を感じる。iPhone4 の TVCM で話題となった「君ほほえめば／ホエン・ユー・スマイル」、サッチモの代表曲「この素晴らしき世界」等、サッチモの世界が詰まった全 20 曲を収録したベスト盤。辛くて悲しい時こそ、サッチモの素敵な音色と歌声、その笑顔で心を癒したい。ディジーもマイルスも敵わなかった “ ジャズの王様 ” は永遠です。

人懐っこい笑顔の裏側で…

“ サッチモ ” というあだ名の由来は、1930 年代初めにイギリスを訪れた際に、あだ名だった「Satchelmouth（がまロ）」をイギリス記者が「Satchmo」と聞き間違えたことに始まるという説や、「Such a mouth!（なんて口だ！））」から来た等の説があるが、その人懐っこい笑顔と温かい人柄で世界中で愛され続け、代表曲「この素晴らしき世界」はあまりにも有名だ。だが、その満面の笑顔には、当時のアメリカ社会で激しかった人種差別において、如何にして白人社会に受け入れられようかという苦肉の策の末に培った侘しさのようなものが見え隠れする。白人社会に対する怒り、恨みといった感情を抑え、自ら道化師の如き存在になることで、黒人とジャズの未来の為に静かに戦い続けた “ ジャズの父 ”、そんな気がしてならない･･･。それ故、その歌声とトランペットの音色には、明るさやユーモア以外に、何とも言えぬ温もりや哀愁が感じられる。

リル・ハーディン・アームストロング

サッチモの元妻（1931 年別居、38 年離婚）で、キング・オリヴァーのバンドで知り合い結婚。ホット・ファイブ～ホット・セブンにピアニストとして参加。1971 年 8 月 27 日、サッチモ追悼コンサートでピアノ演奏中に心臓麻痺を起こし帰らぬ人となった。

日本ルイ・アームストロング協会

サッチモの業績を顕彰し、サッチモのジャズを通して世界中の人々に愛と芸術で平和をもたらす精神を継承する為、ジャズ演奏家の外山喜雄・恵子夫妻が中心となって 1994 年に「ルイ・アームストロング・ファンデーション（LAF）日本支部」としてスタートし、1998 年に「日本ルイ・アームストロング協会」として組織を拡充した日本で唯一のサッチモ・ファンの集まり。公式ウェブサイト⇒【http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/】